

馬のお医者さん



『馬の始りの事』表紙



さるお

この古文書は
馬の治療方法について記した書物なんだ



さる吉

僕たち、実はこの本のなかで、
お馬さんを守っているんだよね



冒頭に登場する

馬を守るさるおとさる吉

(名前は企画展でつけました)

江戸時代の押越村の馬の医者であった小畠家には、
馬の治療に関する古文書がのこっていました。

この中の『馬の始りの事』は、元禄十一年（1698）の書
物を江戸時代の終わり頃に書き写したものです。内容は
漢方・鍼灸（はりときゅう）を用いた馬の治療法が、二
十二の症例とともに図入りで紹介されています。

この本から、昔の人は馬の治療について
とてもたくさんの知識をもっていたことがわかるね！



それだけ馬は人々にとって大切な
動物だったんだね！

